

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自己探求（身体 ～水の活動～ ）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）「水の中でどうやったら身体が浮くの？」「泳ぐってどうやるの？」「自分の身体を知るって？」など子どもの問いを考える。

2. 活動スケジュール

毎月、3歳以上クラスが活動。

2025年7月（3回開催）、2025年8月（3回開催）、2025年9月（4回開催）、2025年10月（4回開催）、2025年11月（3回開催）、2025年12月（3回開催）、2026年1月（4回開催）、2026年2月（4回開催）、2026年3月（2回開催）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

スポーツクラブNAS光が丘（東京都練馬区光が丘5-1-1）のプールにて、NAS所属のコーチより指導。夏場だけではなく、年間テーマとして継続的にプールに入る経験や環境を提供する。近隣のスイミングクラブに協力を依頼し、当園の子ども達が指導を受けられる時間枠を設定してもらう。

4. 探究活動の実践

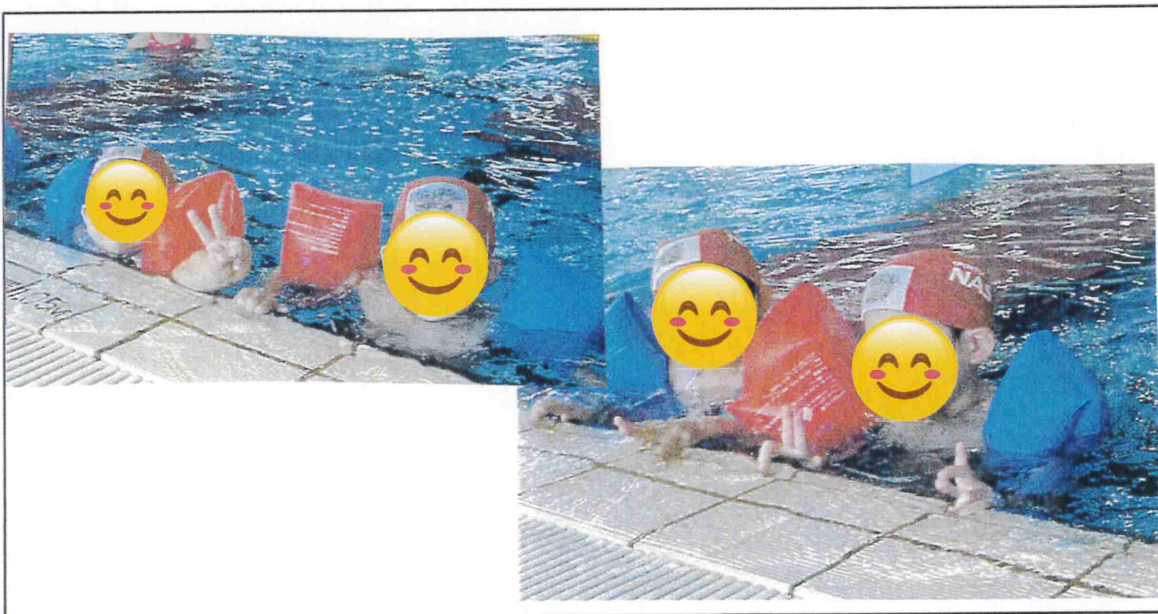
<活動の内容>

月に1~2度のスイミングに通うことで、泳ぐ技術だけではなく、水の中での自分の身体の使い方や浮き方をはじめ、子ども自身が自らの身体を知る過程、体力作りや健康についてを意識することを目標に、実施日（クラス）毎に、その日の内容や子どもの様子や変化を担当またはその日の担当職員が記録を残す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

まずは水に慣れることから始め、水に身体が浮くことを経験する。力の入れ方→前進の力を抜くことで自然に身体が“浮く”感覚を知る。コーチや保育士のところまでくのびする。自分で自分の身体をコントロールする感覚を経験するとともに、信頼する相手のところまで浮き身で泳ぐことで信頼関係に繋がる。子ども達は緊張の中にも自分の初めての経験がとても新鮮であり、真剣で且つ生き生きと取り組む様子が伺えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

プールに入ること、「泳ぐ」経験をしたことで、水を怖がることなく、また継続的に行うことで自分で自分の身体を操ることが出来、上達が自信や自己肯定感の高めることになった。また、水に触れることやその経験が大きな目的であったが、それ以上に社会性や心の成長も大きかったように感じた。保育園とはまた違った環境で、足が届かないプールでの時間は楽しい反面、危険と隣り合わせでもあることも知ることで、より集中し、しっかりとコーチの指示を聞き、行動に繋ぐこと、順番を守りルールを守ることが命に繋がる、さらに自分で自分を守る意識が芽生えたと思う。

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界

<テーマの設定理由>

子ども達の興味やつぶやきを大切に、次のような問いを考える。「どこに住んでいるの?」「どうやって『こんにちは』って言うの?」「何の食べ物が好きなの?」「私たちが好きなものは知っているかな?」という子ども達から発せられた疑問を問いとして設定する。

2. 活動スケジュール

毎月2回、5歳以上クラスが活動。

2025年4月～2026年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

in the Rye株式会社のオンライン教育プログラムである「ミーツ・ザ・ワールド」を利用し、安心して世界の人と会話できるよう、保育士が次のような環境を整える。交流の前、事前に地図や写真で「これから話す国」を簡単に紹介する。大きなモニターやタブレットを使い、相手の顔がよく見えるように、交流の前に、地図や写真で「これから話す国」を簡単に紹介する。「こんにちは」「ありがとう」の挨拶から始めて会話をサポートする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

世界の大人とオンラインであいさつを交わし、「すきな食べ物」「いま何してる？」などの話題で会話する。子どもが自分のことを話したり、相手の話にうなずいたり、まねしたりしてやりとりを楽しむ様子など、保育士は、子どもが感じたことや発した言葉をメモし、活動の写真・動画を記録する。会話のあとに、子どもが感じたことを絵にしたり、「こんなこと言ってたね」と話し合ったりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

関わるゲストの方の国について、子どもたちがもっと知りたいという気持ちが芽生え、「調べる」ことが常になった。国旗カードに興味をもったり、地球儀にも触れる機会になった。オンライン上では、相手の話にうなずいたり会話を楽しむ様子が見られ、子どもがうまく説明できないことや、会話が弾まない時などは、ファシリテーターは相互に会話の糸口を探し、繋ぐ役割を担っている。同じゲストの方との回を重ねる中で、自分達が得意な事を発信したり披露することもあった。個々に「ミーツ・ザ・ワールド」のファイルを作成し、1年で会えるゲストの方の国について調べたことや会話をした内容を記したものを記録している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

世界には肌の色や髪の色、目の色など様々な人がいること、食べ物や言葉、文化、住んでいる環境の違いに気づき、世界を身近に感じるようになった。知らない外国の方に対しても親近感を持ち、関わりができると感じる。また、自分達にとって当たり前なことがその国にはあるのだろうか？など疑問をもつようになり、相手に聞いたり、自分の事を相手に知ってもらいたいという気持ちが芽生えたり視野が広がったように感じている。英語が話せるという目的ではなく、外国の方とコミュニケーションが図れた経験と知識は子ども達の自信にも繋がり、大きな糧になったと思われる。

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（造形）

<テーマの設定理由>

子ども達自身が「どうなるんだろう？」「何色ができるんだろう？」「これを使ったらどうなるの？」「なにができるかな？」など自分自身に問いかけながら自由に表現する。

2. 活動スケジュール

今年度4回、2歳以上クラスが活動。（午前活動、午後職員による振り返り）
2025年7月、8月、12月、2026年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

外部講師、造形作家の浅羽聡美さんによる活動。発泡スチロール板、様々なサイズの筆・爪楊枝・名画のコピー・カラーセロファン・クレヨン・水彩色鉛筆・ポスターカラー絵具・ブラシ・ローラーなどを準備し、子どもがその材料の中から好きなものを選び自由に使える環境を設定する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

大人が使い方を説明しなくても、子ども自身が周囲の他の子が使っている様子を見て真似る古道をする。「こうやって使うんだ。こうやってもいいんだ。」と理解したのか安心して使う様子がみられる。初めは「好きなように描いていいんだよ。」の言葉に戸惑う子もいるが、「こんな使い方もあるよ。」とのアドバイスに徐々に安心して描いたり貼ったりする姿も見られ子どもの活動が広がっていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 年齢やその日のテーマにもよるが、多くは見本の提示や材料など細かな説明はせず、大人から口出しされずに好きなように表現ができる場を提供している。大人が説明しなくても子ども自身が周囲の子が使っている様子を見て真似る行動がある。初めは「好きなように描いてもいいんだよ。」の言葉に戸惑いを見せる子もいるが、制作が得意な子どもは空想を膨らませてどんどん進め、苦手な子ども時間の経過とともに自分なりの世界観が作られている。保育者は危険が無い限り、子どもの観察に徹し見守り、子どもの様子を記録する(ふりかえり時に使用)。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まで自信が無く、絵を画くことに躊躇していた子どもが、自由な発想で何枚も絵を描き得意気に見せてくれる姿があった。また、床に座り込み時間が過ぎても、絵具を使い「わあ、世界がひらけた!」という言葉を発する子どもがいた。自分が好きなように自由に表現するという事は、心を開放し周りからも承認されることなのだと感じた。作品には見本や正解がないことで、自分の世界感が広がり、認められる場があることで、子ども達はそれぞれ自分の世界観を作り上げ没頭する姿も見られ、その集中する様に驚かされた。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自己探求（自己）コントロール

<テーマの設定理由>

「怒りってなに？」という子ども達の日常の疑問から考え、怒りをコントロールすることを目標に、『キッズアンガーマネジメント』の講座を受講する。また、一度きりの受講では継続が難しい面もあるため、職員に同講習のインストラクター養成講習の受講を予定し、日常的、継続的に子ども達と考え実践できるようにし、振り返る機会を設けたいと考えている。

2. 活動スケジュール

今年度1回、3.4歳クラスが活動。
2026年3月24日開催。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
外部講師、島田真由美さんよりキッズアンガーマネジメントプログラムを学ぶ機会を設ける。

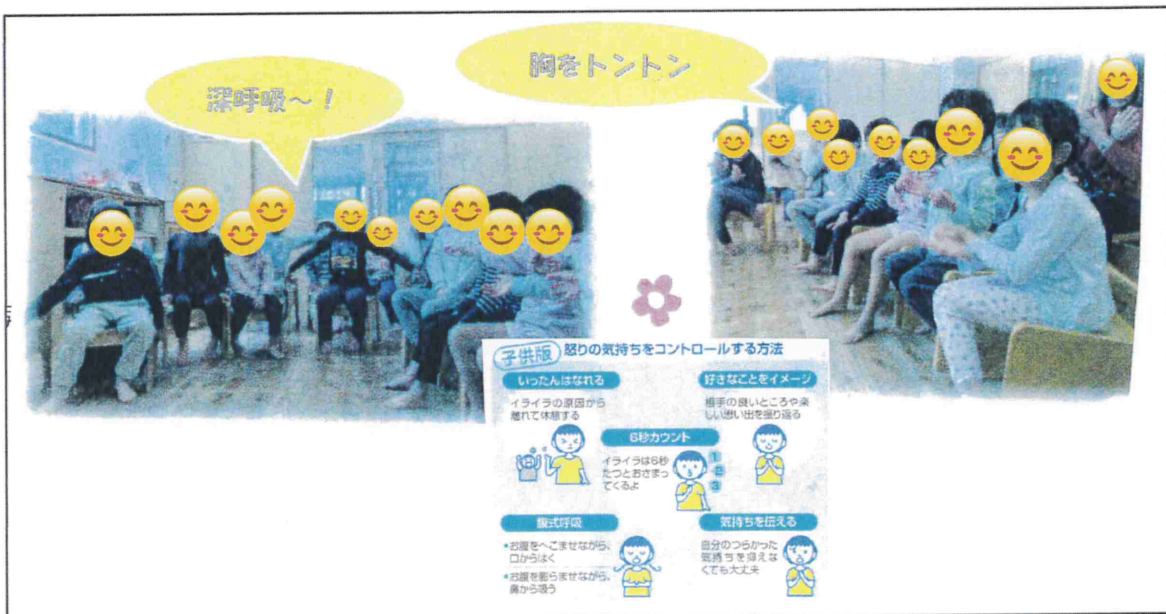
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

キッズアンガーマネジメントプログラムでは、先ず怒ること（怒り）の感情は悪いことではないことを共有する。プログラムを受講し、怒りの感情をどうコントロールをするのか、自分で合った方法を探求する。子ども達の様子の変化等について、子ども達自身での気づきを大切に。受講や一連の様子を動画や写真で記録する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）スライドをはじめ、わかりやすいイラストを用いて人には様々な感情があることを改めて知った上で、怒りの感情について話し合う。「どんな時に怒る?」「怒った時、どうした?」「どの後、どんな気持ちだった」など自分が怒った時の経験を振り返る。誰もが経験する<怒り>に対し、コントロールをする方法は複数あり、それぞれ自分にはどんな方法が合うかを見つけ実践してみる。子ども達同士のトラブル時などの実践場面をふりかえる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

怒ることが悪いことではない、ということ子どもとともに知りえたことが大きかった。日常の中で「そんなことは怒ることじゃない」という保育士の意識から、怒りの感情は人それぞれであり、子ども自身がその感情に対してコントロールをすることが大切であることを子ども達とともに生活の中で経験できた。保育室内に感情コントロールのイラストを掲示し、常に子ども達が感情のコントロールを自然に体得できるようにしている。

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自己探求（こども哲学対話）

<テーマの設定理由>

その時の子どもの生活環境の中から興味のあることや掘り下げたいテーマを決める。これまで「友達とは?」「得意なことと不得意なことはなんであるの?」「嘘について」等、子ども達とともに“考えるテーマを設定する。

2. 活動スケジュール

今年度5回、4歳以上クラスが活動。（午前活動、午後職員による振り返り）

2025年9月、10月、11月、12月、2026年2月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

外部講師、尾崎絢子さんによる活動。子ども達主体の対話であるため、子ども自身が対話をしてみたいテーマを選んで参加する。講師にファシリテーターとして入って頂き、5～10人程度で輪になり、対話を楽しむ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

10名弱の子どもと数名の大人が車座になり、その日のテーマにそって20～30分程度の対話をする。子ども達の発言をファシリテーター役がメモを取り、テーマについて深めたりげたりしながら対話を進める。発言のない子どもにも様子を見ながら意見を求め、自分の意見を伝える機会を設けている。また職員の一参加者として対話に参加するが、子どもと大人の“差”はなく、先生という立場もなく、あくまで子どもと同じスタンスで対話に臨む。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「お友達が話をするときはしっかり聞こう」というルールを必ず毎回確認した上で、テーマに対しての“答え”もないことを伝え、考えや思ったことは自由に話をする土壌を作る。発言の多少の差はあるものの、テーマについて子ども達がみんな考えていることがわかる。さらに、テーマに正解がないため、他者の意見や考えは否定せず、全てが行程される安心の場を参加者全員が作っている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

テーマについての答え、正解がないことで、一人一人が肯定されるため、参加者が安心して発言できる場がある。普段、あまり話をしない子ども、自分の思いを伝えられない子どもも、回を重ねる毎にしっかりと意見を伝えるようになった。「みんなが自分の発言を聞いてくれた」という経験は自己肯定感を高めることにも繋がり、また、どの意見や考えも間違いはなく、様々な回答が出されることで、多様性を自然に受け入れる経験に繋がっている。答えのないテーマについて考えることは普段の生活の中でなかなか出来ない経験であることから、哲学対話は非常時貴重であり贅沢な時間だと言える。

令和7年度【2025年度】

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区練馬4-25-14
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（音楽）

<テーマの設定理由>

音の出る玩具や楽器に関しては「これってどんな音がする？」「どうやったら音が出る？」という子ども達の興味関心から発せられた疑問を問として、また、歌やリズムに関しては「みんなで音を合わせるとどうなる？」「それぞれの違った表現って？」という子ども達の興味関心から問いとして設定する。

2. 活動スケジュール

今年度毎月1回、2歳以上クラスが活動。
2025年4月～2026年2月（3月はなし）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
外部講師、藤石芽里さんによる活動。音の出る玩具として、マラカスやカラコルツリー、メダルフォンなど、楽器としては、子ども達の合奏に用いる、カスタネットや鈴、太鼓、木琴などを準備する。歌やリズムについては、<音楽あそび>として講師に依頼し、音の表現として楽しむ機会を設ける。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

音の出る玩具を保育室に設定、目で興味を持ち、手にすることの出来る環境の下、遊びの中で音を感じられるようにする。<音楽あそび>は2,3歳と4,5歳に分けそれぞれの興味やレベルに合わせた歌やリズムあそびの中から音を楽しむ。クラスで保育記録やドキュメンテーションなどで記録化し、保護者とも共有を図る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

個々にタオルを持ち、音楽に合わせて丸めて投げたり、床に置いて海苔巻きに見立てリズムに合わせて撒いてみたりしてリズム遊びを楽しむ。また幾つかの、珍しい外国の楽器に触れ「カエルみたいな音がする。」と鳴らしてみたり、「キラキラできれいな音〜。」と声を上げる子どももいた。季節の歌では、冬に「雪やこんこ」をマラカスや鈴を使って演奏したり、輪唱をして全体のハーモニーを楽しみながら感じているようだった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音楽はその名のとおり、音を楽しむものであることを経験できているように感じた。また、歌を聞いてそれに合わせて一緒に歌うなど、自分一人ではなく、みんなで併せる事で出来上がると音やハーモニーを楽しいと感じる経験に繋がった。